

1	<p>アリス「うん、うん、もちろん！　イリスちゃんみたいな可愛い女の子から、お慕いしてる、なんて言われたら……っ、断りっこないよ！　むしろ土下座したいくらい！」</p>
2	<p>イリス「よかった……。では、よろしくお願いします……」</p>
3	<p>アリス「うわぁー！　イリスちゃんの身体、初めて見たけど……聖女様みたいだから華奢かって思ってたら、すごく女の子らしくて、綺麗……！」</p>
4	<p>アリス「腰なんてキュツとくびれてるのに、おっぱいとかお尻とか、出るとこはちゃんと出て……とっても柔らかそうっ」</p>

9	イリス「ええ！？　そんなぁ……………」
8	アリス「きゃん！　そんなこと言われると、余計に苛めなくなっちゃう！」
7	イリス「あ、はい…………。あの…………そんなに経験がないので、優しくお願いします…………」
6	アリス「ごめんごめん。イリスちゃんが魅力的だったから、ついでね。じゃ、こつちきてくれる？　ベッドに腰掛けて…………」
5	イリス「あ、アリスさん…………つ、言葉に出すの、やめてください…………。さすがに恥ずかしいですから…………」

12	<p>アリス「ふふ。こうやって、抱き締められて……誰かの熱を感じるのって、気持ちいいよねえ。ね、イリスちゃん、キスしよ……」</p>	11	<p>イリス「きゃふん！？ はあ……っ、アリスさんの柔らかい身体と、体温……背中に感じます……っ」</p>	10	<p>アリス「えへへ、冗談よ。でも、ちよつと本気。イリスちゃんとエッチするの、私もかなり興奮してるからさあ！ ああ、もう！ 後ろからぎゅううッてしちゃう！」</p>
13	<p>イリス「……はい。ん……ちゅ。ふむ……ちゅ……っ。あふう……っ、唇と唇を合わせただけなのに……なんだか頭の芯まで、蕩けてしまいそうです……」</p>				

14	<p>アリス「そんなに感じてくれてるんだ……嬉しい！ もっとキス、しよう……！ んちゅうっ、ちゅ……むちゅうっ。イリスちやんの唇を、食るっ。んちゅう、ちゅううッ」</p>
15	<p>イリス「んふウ！？ 今度はっ、激しい、れふ……！？ んふむっ、むんうっ、ちゅちゅう！？」</p>
16	<p>アリス「舌も、絡め合う……っ。ちゆるんっ、じゆるウ！ レオレオっ」</p>
17	<p>イリス「んはアッ！？ アリスさんの舌あっ、じゅりゅりゅうっ……ぬるぬるっへ擦《こす》れへ……んんんっ、ちゆるっ、頭がぼおっと、しへきひやいまふ……っ。じゆるン！」</p>

21	<p>イリス「んきゅうウン！？ 乳首がつ、ジンジンしへ……んちゅちゅうつ、背中がジリジリつへ……！？ じゅる、んんん！」</p>
20	<p>アリス「んふふつ。イリスちゃんの感じてる姿、可愛いよ……！ もつと感じさせたくなる！ んちゅうつ、キスしながら…… …乳首を、指先で弾いへ！ コリッコリッ、コリッコリッへ ！」</p>
19	<p>イリス「くひゅッ！？ んひゃあ！？ んちゅつ、ちゅる、おっぱい、もみもみされへ……つ、アソコの口まれ、スリスリさ れはら……！？ 何も考えられなくなっひゃう！」</p>
18	<p>アリス「深いキス、しながら……つ、ジュルジュルつ、おっぱいと、下のお口も……！ んふうつ」</p>

25	イリス「いひゃあ！？ んっ、ちゅ、くちゅう！ 恥ずかしい、れふ……！ んくうン！」
24	アリス「イリスちゃん、もうしっかり濡れへる……！ んちゅうっ、ジュル！ あふんっ、指がぬめってしへえ……っ、ぬちゅぬちゅ音、鳴っへるよっ」
23	イリス「はんんッ！？ きゅふウン！？ アソコの入り口っ、広げられへ……！？ ちゅむう、ムリムリっへ中に、入ってくりゅ……！？」
22	アリス「はああっ！ イリスちゃん……ピクピク震えて、気持ちよさそう！ 股のお口も、気持ちよくしてあげる！ 指、入れるね！ んっ、くんん！」

29	<p>アリス「ああッ！ 聖女様みたいなイリスちゃんを乱れさせるの って、ものすつごく背徳的で興奮する！ ハアッ、私もたま んない！ もうっ、アソコ同士……絡ませちゃおっ！」</p>
28	<p>イリス「んんぐッ！？ ふああッ！ あっ、アリスさんっ、くあ あ！？ そこっ、ダメえ！ 身体がブルブルって震えてっ、 止まらないですう！」</p>
27	<p>アリス「いやらしい穴の中のっ、天井側にあるザラザラしたとこ ……んちゅっ、肉壁が密集しへるとこお……！！ ここ、指先 れ……ズリッズリッ、ズリズリっへ！」</p>
26	<p>アリス「恥じらっへるイリスちゃんも、イイ……！！ ジュルッ、 チュルチュル……！！ 私、燃えちゃうよ！」</p>

33	32	31	30
<p>アリス「あふっ、ハアハアッ、ほんと、いやらしい音、してるね……！ それにつ、匂いもすごい！ イリスちゃんも私も、卑猥なお口から甘酸っぱい匂い……してるよ！」</p>	<p>イリス「んひアッ！？ アソコ同士が、接触してえ……！？ ひやああん！ ぬちよって、淫らな音があ……！？」</p>	<p>アリス「もちろんだよっ。ほらっ、イリスちゃん……ぐしょ濡れになってるお互いの股を、寄せ合って……！ くううん！」</p>	<p>イリス「んっ、ああ！？ アリスさんのアソコもっ、濡れてる……！ 本当に私で、興奮してくれたんですね……！」</p>



37	36	35	34
<p>アリス「はくつ、ああ！ イリスちゃんのアソコ……っ、いやらしくヒクヒクしてるの、わかるよ！ 私を求めて、くばくばしてる！」</p>	<p>イリス「きやはあアッ！？ 下のお口いつ、ニユルツニユルツて滑って……んひゃああ！？ 擦れ合ってますウ……！」</p>	<p>アリス「その羞恥心が、高揚につながるんだよ……！ んっ、くああ！ 昂ぶりすぎてっ、ダメだ！ アソコ、おもつきり……すり合わせよ！ んっくウ！」</p>	<p>イリス「匂いなんて……言わないでください！ ああンツ、恥ずかしすぎます……！」</p>

41	<p>アリス「うん……うん！ イッていいよイリスちゃん！ 私もうっ、イキそうだから！ んくっ、くはっ、はああッ！？ イク……！ んんっ、イッちやう！」</p>
40	<p>イリス「んきゅっ、うああンッ！？ 頭の中、ビリビリ痺れて ！？ ひあっ、気持ちよくなることしか考えられない！ あ あアっ、身体も一痙攣≒けいれん≒してっ、だっ、ダメです ウ！」</p>
39	<p>アリス「私も気持ちいい！ イリスちゃんの割れ目の肉とっ、ピンピンに勃起してるクリがくりゆくりゆって擦れて……んん ん！ 私もダメになる……っ、うああン！」</p>
38	<p>イリス「きやああンッ！？ ダメえ！ アリスさんのお股、スリ スリされるのっ、気持ちいいんですウ！」</p>

<p>45</p> <p>アリス「くっ、クリ同士がコリッて擦れてッ!? 私もイク!? んんんんアあッ!!」</p>	<p>44</p> <p>イリス「アリスっ……さん、アリスさん! イキます……! イク! イクッ! きゃああああンッ!!」</p>	<p>43</p> <p>アリス「恋人つなぎ……ねっ! 指を絡ませて……んああ! 股も、愛液もっ、絡ませ合ってえ! んんんっ、一緒にイこ! イリスちゃん! ああっ、イリスちゃん!」</p>	<p>42</p> <p>イリス「んひゃ! ああ! アリスさんっ、一緒に……一緒にイッてください! 手を握ってえ!」</p>
---	---	--	--

49	48	47	46
<p>アリス「はふつ、ハアハアハアッ！ほんと……つ、くつ、ハア！私もつ、イリスちゃんとのエッチ……気持ちよかったあ……！う、はあ……」</p>	<p>イリス「ひゃああ！気持ちいいですう、アリスさんっ！あつ、ハッ……ハアッ、くはあ……！あつ、うううう……つ。ハアハア、あうう……」</p>	<p>アリス「イッて、イッて！私も合わせてっ、イッてるからア！くああんッ！！」</p>	<p>イリス「あうッ！？あああ！すごひつ、ですウ！こんなにっ、気持ちよくなったの、初めて……！まだイクううッ！」</p>

53	イリス「ふふふ。アリスさん、目覚めてしまったんですね」
52	アリス「……う……？ んん……？ なぁに……？ ん……く？ イリス、ちゃん……？……な、何してるの！？」
51	イリス「ソルアースに召喚されし人の子よ……。汝、封印から解 き放たれた魔神ウイズの魂をもって、その肉体を捧げ——」  →呪文なのでエコーなどの効果を
50	イリス「アリスさん、よく寝てます。よほど、私との性交に満足 したのですね……ふふふ。これからあなたの身体、いただき ますからね……。あ————つ」  ※91…魔法が発動して風が巻き起こっている音（ 強風と弱風の間くらい）

58	アリス「それって、あの祠の……？ 部族が一丸となって倒したっていう、おとぎ話？」
57	イリス「かつてソルアースに、災厄を撒き散らした魔神のお話しをご存じですか？」
56	アリス「私の身体を……？ いただくって、どういうこと？」
55	イリス「ええ、魔法を発動していました。アリスさんの肉体をいただこうかと思つて」
54	アリス「……イリスちゃん、今何かしようとしてなかった？ 呪文みたいなのが聞こえたけど」

62	61	60	59
<p>イリス「アリスさんと同じように、ウィズは戦いの中で、敵から様々な能力をコピーし、取り込んでいきました」</p>	<p>イリス「その通り。数千年前、ハーレムクイーンになるべくヒト族の代表として地球より召喚された少女。彼女こそが、魔神ウィズなのです」</p>	<p>アリス「魔神の正体が……地球人!？」</p>	<p>イリス「ふふ。おとぎ話などではありませんよ。魔神の名は、ウィズ。アリスさん、あなたと同じく、勇者としてこの地に召喚された地球人なのです」</p>

67	イリス「賢いアリスさんなら、もう気付いているはずです。この間の嵐で、祠が壊れてしまいましたね」
66	アリス「……そんな数千年前の話、だからどうだっていうの？」
65	イリス「はい。能力が、彼女の許容を超えてしまったんです。故に少女は自我をなくし、魔神と化しました」
64	アリス「それが……魔神？」
63	イリス「多種多様の力を得てしまった彼女は、今度は己の力に取り込まれ……結果、暴走してしまった」



72	アリス「イリスちゃん……それ本気で言ってるの？ 冗談じゃないか？ 祝勝会の余興とか……」
71	イリス「魔神と同じ世界の住人であり、優れた身体能力を有するアリスさんの身体が、最も適しているんです。これは、とても名誉なことなのですよ」
70	アリス「……それで、私の肉体をいただくようって言ってたの？」
69	イリス「復活したのは魂のみ。完全な存在になるには、その器である肉体が必要なのです」
68	アリス「あれは……魔神ウィズを封印してた……！？ それが壊れたから、魔神が復活してるって言いたいのか！？」

77	イリス「言ったでしょう。神の意思に、アリスさんは逆らうことはできないんです。術が発動するまで、私の話をのんびり聞いてくださって、ありがとうございました」
76	アリス「……わかったわ。じゃあ私は、ここを出て……うつく！ ？　な……何……！？　身体がつ、動かない……！？」
75	イリス「アリスさんの意思は関係ありません。これはもう、魔神ウイズが決定している……神の意思、なのですから」
74	アリス「う……ッ。魔神って……この世界に厄災《やくさい》をもたらすんでしょ？　そんなものの復活に、私が協力すると思う？」
73	イリス「そう思いたいなら、アリスさんの好きにして構いませんよ」

82	アリス「……王様？ そんなのになりたいがために……この世界に悪さをするっていうの……!？」
81	イリス「ふふっ、しれたことです。魔神を従え、この世界の王になるためですよ」
80	アリス「うぐっ、くう……!？ どうしてよイリスちゃん！ なんであなたが、魔神を復活させようとするのっ!？」
79	イリス「はい。術が発動すれば、もはや抗うことできませんから。さあ、あなたのその肉体を、魔神ウイズに捧げるのです」
78	アリス「く……!？ 素直に真相を話してたのは……時間稼ぎだったのね……」

86	<p>ライラ「おい、アリスっ。夜這いにきたぜ！……って！ なんだこりゃ！？」</p>
85	<p>イリス「その前に、アリスさんの肉体を奪い、絶対の存在になるのです！ これからその儀式を、あなたの身体に施します」</p>
84	<p>アリス「また……っつ、この世界の人達に、倒されるわよ……！！」</p>
83	<p>イリス「悪さ、ではなく、力の証明です。王たる私の、圧倒的な力を愚民どもに刻みつけ、抵抗する意思さえ刈り取る。そして絶対的な恐怖を植え付けるのです。それでこそ支配者！ 完全なる王の、力！」</p>

※88 1…ガチャツと木製のドアを開ける音

	90		89		88		87
	ライラ「るせえ！ すかしてんじゃねえぞ！ おらああ！」		イリス「ふふつ。返答の前に攻撃してるじゃないですか」		ライラ「あん！？ アリスどうした！？ てめえ、イリスとか言 いやがったか。アリスに何しやがった！？ 返答によっちゃ ただじゃすまねえぞ！ だりゃあ！」		アリス「ぐうう……！？ らっ、ライラさんっ！？ 助かった！」
※88 1…タンつとパンチやキックを身体でガードす				※89 1…タンつとパンチやキックを身体でガードす る音			

95	ライラ「黙ってろってんだ！　うるあッ！」
94	イリス「ふふふ。学習能力がないんですねシシ族は」
93	ライラ「試してみるか？　オレの体力は無限だぜ！　おらっ、おらっ、どらあ！」
92	イリス「無駄ですよ。あなたの攻撃は、私には届きません」
91	ライラ「ちっ。硬え……！　魔法障壁か、チクショーが！」
る音	

100	99	98	97	96
ライラ「大丈夫かよアリス！」	アリス「くっ、ハア……ハアッ。ありがとう、ライラさん……」	ライラ「……ちっ。消えやがった。何者なんだあいつ？」	イリス「……また余計な人が増えちゃいましたか。仕方がありませんね。後日改めて、アリスさんの身体を奪いにきます。ではまた……」	ウルド「お姉様？ 部屋の中が騒がしいようだが、どうかしたのか？」

105	ライラ 「アリスにまた、エロいことしてもらおうと……苛めてもらおうと思ってきてみりゃ——」
104	ウルド 「……どこかで聞いたことのある台詞だな」
103	ライラ 「オレはアリスの女になることに決めたのさ。あの戦いで は女の悦びを教え込まれたからな」
102	ウルド 「……ん？ お姉様つ、どうしたのだ！？ なぜシシ族の ライラがここにいる！？」
	※ 1…ガチャツと木製のドアを開ける音
101	アリス 「平気……。ウルドさんも、入ってきて」



111	アリス「ううん、違う。ほんとのことみたい。魔神を完全復活させるために、私の身体が必要なんだって……。イリスちゃんを、止めなきゃ！」
110	ウルド「あれはおとぎ話のはずでは……？」
109	ライラ「魔神だ!？」
108	アリス「イリスちゃんは、魔神を復活させようとしてるの」
107	ウルド「イリスに!？ ということだ!？」
106	アリス「ライラさんには、助けてもらったの。イリスちゃんに、やられちゃった……」

116	115	114	113	112
マツリ「あなたからの頼み事ですから、礼には及びませんわ」	アリス「きてくれたんだねマツリちゃん。ありがとう」	マツリ「アリス、お待たせしましたわね」	※ 1…鳥のさえずりなど、朝を連想させる音 アリス「わかってる。だからこそ、この危機をみんなに話さなくちゃ！」	ライラ「しかしアリス、あいつの強さははんばもんじゃねえぞ。さっき戦ってみて実感したぜ。多分全力のお前でも、かなわねえはずだ」

121	120	119	118	117
<p>ウルド 「話の途中ですまないが、急いだ方がよさそうなのでな。早速例の祠へ向かおう」</p>	<p>マツリ 「アリス、それはどういう意味ですか？」</p>	<p>アリス 「マツリちゃんとほんとにうり二つだね。でもイノリちゃんの方が丁寧だ」</p>	<p>イノリ 「はい。マツリの双子の妹、イノリと申します。姉がとももお世話になっているそうで、私からもお礼を申し上げます」</p>	<p>ウルド 「呼び出しに応じてくれて感謝する。そちらが例の……？」</p>

125	124	123	122
<p>マツリ「当然ですわ。イノリは我が部族随一の霊媒師。妹の右に出る者などおりません」</p>	<p>アリス「さすが、イノリちゃんにはこういうの、わかつちやうんだね。私もちよつと、寒気がするよ……」</p>	<p>イノリ「……なるほど。封印されていたものは、すでにここにはないようです。ですが、空になつてもこの瘴気……。とても強く、禍々しいものが封じられていたのは間違いないようですね」</p>	<p>アリス「祠……ほんとに壊れちゃってるね……。やっぱ雷が直撃したんだ……」</p>

129	128	127	126
<p>アリス「イリスちゃん……魔神復活のために、力を溜めてるみたいだね……」</p>	<p>イノリ「それと、よくない報告も……。魔神の魂は、少しずつですが、その存在が膨らみ、禍々しさも増していつているようです」</p>	<p>イノリ「はい。これほど強力な波動を感じたことはありませんから、魂を辿るのもとても容易です。ここより東の方角に、大きな波動を感じます」</p>	<p>ウルド「それは心強い。キツネ族に協力を求めたのは正解だった。それで、封印されていた存在の現在の居場所は、どこかわかるか？」</p>

134	133	132	131	130
<p>アリス「どこにいたって危ないのは同じでしょ？ だったら先に動く方がいいよ。待つのは性分じゃなしね」</p>	<p>イリス「よくここがわかりましたね、アリスさん。お仲間もたくさん引き連れていらっしゃるなんて。まさかあなた自らが飛び込んでくるとは、思いませんでした」</p>	<p>アリス「そうだね。そこでちょっと、私に考えがあるの。たくさんの人に協力してもらえるように、お願いしにいかなきや！」</p>	<p>マツリ「でしたら、放っておくのは得策ではありませんわね。先手を打たなければ、ただ死を待つばかりですわよ」</p>	<p>ウルド「おそらく、お姉様の肉体を奪おうと準備しているに違いない」</p>

139	イリス「……そうですか。たとえ勇者だとしても、私にはかないませんよ」
138	アリス「違うけどね。けど、どうとつてもらってもいいよ」
137	イリス「……他は足手まとい、ですか？」
136	アリス「どこにいたって魔神の脅威にさらされる。だからみんな、ここにきたんだよ。でも安心して、戦うのは私一人だけだから」
135	イリス「それで、どうしよう？ 全員でかかれば、私に勝てる」と踏みましたか？ 私はあらゆる秘術、禁術に手を染めました。魔神を除いて、私の力を凌駕する者はいないでしょう。命が惜しいのなら、退散した方が身のためですよ」

144	マツリ「二人とも、馬鹿げてますわ！ なんとという力ですの！？」
143	ライラ「みたい、じゃねえ！ 実際に大地が揺れてやがる！」
142	ウルド「くッ、なんだ！？ 二人がぶつかり合うたびに、世界が揺れているみたいだ！」
	※se1…雷鳴※se1…ゴゴゴッ、ゴゴゴッと地震の地響きのような轟音
141	イリス「やらなくてもわかります。はッ！」
140	アリス「勝負は、やってみなくちゃわかんないよ！ はああああ！」



149	148	147	146	145
<p>アリス「考えてる暇なんてつ、ないよッ！　だあアッ！！」</p>	<p>イリス「私の魔法を、すべて弾き返した……。私が知っているアリスさんの実力を超えている……？」</p>	<p>※のの1…ゴゴゴつ、ゴゴゴつと地震の地響きのよう な轟音</p> <p>アリス「こんな魔法つ、どうってことない！　やあッ！」</p>	<p>※のの1…雷鳴</p> <p>イリス「砕け散りなさい！　はああッ！」</p>	<p>サーラサーラ「私達が入る隙がない……！！」</p>

153	152	151	150
<p>アリス「同時にきーーッく！！　だあッ！！」</p>	<p>※の1…ゴゴゴつ、ゴゴゴつと地震の地響きのよう な轟音</p> <p>アリス「上だよ！　炎の雨ッ！　いつけえええッ！！」</p>	<p>イリス「ふう。私の顔を襲うなんて、足癖が悪いです……んッ？ アリスさんがいない！？」</p> <p>※の1…タンつとパンチやキックを身体でガードす る音</p>	<p>ライラ「アリス、すげえ！　蹴っただけで衝撃波を起こしやがっ た！」</p>

157	156	155	154
<p>アリス「それを聞いたからこそだよ！ そうしないと、イリスちゃんには勝てないって思ったし」</p>	<p>イリス「全、員……！？ なんとという馬鹿げたことを……！ 力を蓄えすぎたがために魔神化したウイズの話を聞いていなかったのですかあなたはっ」</p>	<p>アリス「へへんっ。ここにいる全員とエッチして、すっかりちゃっかり負かしてきたからね！」</p>	<p>※00…繰り返したパンチやキックが対象に連続でヒットした音</p> <p>イリス「く……ッ！ なんですかこの多彩な攻撃は！？ こんなにもたくさんの能力、体得していなかったはず！」</p>

161		160	159	158
<p>アリス「ウルドさんにサーラちゃん、マツリちゃんやライラさん。私の愛すべきすべての女の子達の力が、私を助けてくれる！私に力を貸してくれる！だから私は——負けないッ！！」</p>	<p>※561…雷鳴</p>	<p>イリス「……ふふ、ふふふ……。そんな……愛だなんて……。つ。あなたは……。どうかしています！ 愛なんて……。肯定できません！ はああッ！！」</p>	<p>アリス「思わないよ。だってこの力は、すべて愛の営みのよって得たものだもん。私の女の子達の力が、私を傷つけるはずないでしょ！」</p>	<p>イリス「考えなしにもほどがあります！ アリスさん、あなたは本当に……人ですか！？ 力を暴走させてしまうかもと、思わないのですか！？」</p>

164	163	162
<p>アリス「イリスちゃん、できれば降参してほしい。これ以上イリスちゃんを傷付けるの、気が進まないからね。私はイリスちゃんのことも、大事に思ってる。好きだから」</p>	<p>イリス「くうううッ!? やはりあのときつ、無理矢理にでも身体を奪っておくべきでした……っ。まさかこんなにも短期間でここまでの力を得るなんて……!!」</p>	<p>※<small>2</small>1…ゴゴゴつ、ゴゴゴつと地震の地響きのよう な轟音</p> <p>マツリ「なんというでたらめさでしょう……! 炎と氷、雷と風、その他諸々の魔法を同時発動させてイリスの攻撃にぶつけるなんて!」</p>

168	イリス「ぎゃあッ!? あゝあゝあゝあゝッ!?」
	※ss1…雷鳴※ss1…ゴゴゴつ、ゴゴゴつと地震の 地響きのような轟音
167	アリス「ダメよイリスちゃん! そんなことしたら——」
166	イリス「私が魔神の魂を取り込んで、私自身が最強になればいい! きたれっ、魔神ウイズ! 汝の肉体はここにあらん!」
	※ss1…魔法が発動して風が巻き起こっている音(強風と弱風の間くらい)
165	イリス「また、愛、ですか……。その言葉、虫酸が走ります! 私だけの力でアリスさんに及ばないのなら……。魔神の魂に、私の肉体を捧げます!」

173	ウルド「まずい！　くるぞ！」
172	マツリ「あれが暴走ですよ！？　なんと醜い……！　魔神というより邪神ですわ！」
171	ライラ「おいつ、触手の化け物に変身しやがったぞ！」
170	イリス「ぎああッ！？　んがぁぁぁッ！　蹂躪（じゆうり）ん㇏……っ、破壊！　ぁぁぁッ！！！」
169	イノリ「いけません。やはりイリスさんでは、魔神ウィズを制御しきれないようです。暴走します！」

178	177	176	175	174
<p>ウルド「あたしの身体に触れるな！ この肉体はつ、お姉様のもの！ やめッ！ うつぶ、ああッ！？ 下の口に触手が入って……！！？ ふああ！？」</p>	<p>ライラ「くそッ！ 引きちぎれねえ！ なんて頑丈さだ！ うぐあッ！？ やめろつ、アソコに狙いつ、定めやがって！ オレを好きにしているのはつ、アリスだけだぞ！」</p>	<p>マツリ「ひっ、くうう！？ 冗談じゃつ、ありませんわ！ こんな醜いものにつ、犯されてやるものですか！ あぐあッ！？」</p>	<p>サーラサーラ「うつ、くああ！？ 触手に、この身体をつ、絡め取られる！？ そんなつ、私の半液体の身体でも……逃れられない！？」</p>	<p>アリス「みんな逃げ——うああッ！？」</p>



182	181	180	179
<p>イリス「犯す……！ 犯し殺す！ 私に逆らう者はつ、肉体を弄びながら……皆殺し！」</p>	<p>サーラサーラ「かつ、身体中につ、触手を突き刺されて……！！？ がつ、は！ 痛いはずが……つ、この触手にも……媚薬効果があるの！？」</p>	<p>マツリ「かぶッ！？ ぐぶぶウッ！？ 口にまれッ！？ ぐぶオッ！？ ぶごッ、わたくしの口をつ、なんらと思つで……ぐぼごぼオッ！」</p>	<p>ライラ「くっ、うほおッ！？ おぐンッ！？ けっ、つ……にまでっ、入ってくんじや、ねえ……！ くほオッ！？ アソコと同時攻めっ、やめろオ！ ほおお！」</p>

186	185	184	183
<p>ライラ「くそ……ッ！　こんなつ、触手の化け物なんかにつ、イカされたくねえのに……！　ああつ、ダメだッ！　アソコとケツ穴の壁……ズリズリ擦られてつ、イッ……く！　くああンッ！？」</p>	<p>アリス「が……ッ！？　触手で首つ、ぐう、締められるッ！？　が、ばッ！？　アソコもお尻もつ、触手でゴリゴリ……苛められでるのにッ！？」</p>	<p>イリス「黙りなさい……！　あなたが抵抗せず身体を差し出していれば、こんなことにはならなかったのです。アリスさん、あなたも苦しみながら滅んでください！」</p>	<p>アリス「みつ、みんな……っ！　イリスちゃんつ、魔神に負けないで……！」</p>

190	189	188	187
<p>ウルド「ぐふあつ、痛みが全部つ、快感に変わっで！？ おふつ、  おおおンッ！？ 耐えつ、られなひ……！？ イグ！？ ぐ  ふおおおンッ！？」</p>	<p>ウルド「がああッ！？ 子宮の中までつ、触手に入り込まれで！  ？ 腹にボコボコ、形が浮き出るくらい、突き込まれでるッ  ！？」</p>	<p>サーラサーラ「身体を中心つ、ゴツンゴツン叩かれで！？ 全身  に快感が響く！？ ふひひンッ！？ んひあ！？ イクッ！  ひひひイイんッ！？」</p>	<p>サーラサーラ「身体の中までつ、触手にいじくられるのつ、ダメ  え！ 体内につ、ゴリゴリ這いずつて……！？ はぎああ  ！？」</p>

194	193	192	191
<p>イリス「ふふふ。ははははは！ 息の根を止める！ 死ね……死ね死ねえ！ きやははははは！」</p>	<p>アリス「ぐつ、ううううッ！ このままじゃ……みんなが……つげほつ、ぐぐウ！ほんとに殺されちゃう！」</p>	<p>マツリ「ふぎぎンッ！？ 肉の穴にズボズボ、触手突っ込みながらッ、ごぼぼ！？ クリつ、撫でうのは！？ ほぎゅッ！？ ぎゅうウウウんッ！？」</p>	<p>マツリ「がぼぼッ！？ おぼンッ！？ 喉の粘膜つ、グリグリつえ、しないれ！ あぼぼオッ！？ 壊れ、る！」</p>

198	197	196	195
<p>イリス「ぎゃッ!? なつ、何を!？」</p>	<p>※00…繰り返したパンチが対象にヒットした音</p> <p>アリス「イリスちゃんも、助ける! 迷惑って言われても、絶対助ける! はああああッ!!」</p>	<p>イリス「く……ッ!? なんとという想いの力!? 私の触手を引きちぎるなんて……!」</p>	<p>アリス「ここにつ、いるのは……つ、みんな私の、大事な……女の子……! 恋人、なんだから! 殺させ……ない! 私が守る! ぐっ、んんん! こんな触手なんて……だあああッ!!」</p>

202	201	200	199
<p>アリス「…………うつ。ここが、魔神ウイズの精神世界……？ 寂しいところ……」</p>	<p>※S1…大きな氷の塊がバキッと砕け散った音</p> <p>イノリ「はいっ。ではいきます！」</p>	<p>アリス「OK！ ありがとイノリちゃん！ 必ず助けてくるからっ、お願い！」</p>	<p>イノリ「アリスさんそのまま！ イリスさんを強く抱いていてください！ アリスさんの意識を、魔神ウイズの精神に接続します！ イリスさんの心を、魔神から切り離してきてください！」</p>

206	205	204	203
<p>ウイズ「アリス……アリスう！ 我が破壊衝動を妨げる者！ 我が破壊行動を阻止する者！ 貴様を破壊する！ 貴様を粉砕するウ！」</p>	<p>アリス「そっか……。暴走してるだけで、中身はいい子なんだきつと。私も精神であの子とつながってるからだろうけど……そう感じる！」</p>	<p>アリス「あれが……ウイズ？ 私と同じくらいの年の子じゃない……！ 私よりも華奢だし……あんなおとなしそうで可愛い子が、魔神に……っ？」</p>	<p>ウイズ「うつ、ガッ！ がああッ！ 破壊！ 破壊イ！ この世に……崩壊を！ すべてを破壊、し尽くす！」</p>


211	210	209	208	207
アリス「……えッ!? 何、今の声?」	ウイズ「……や……だ……っ」	アリス「負けないよ! ウィズも助けるっ、やああああッ!!」 ※se1..雷鳴※se1..ゴゴゴっ、ゴゴゴっと地震の 地響きのような轟音	ウイズ「アリスを破壊! アリスを破砕イいいッ!!」	アリス「そうされる前に、あなたも助ける! だって可愛い女の子を助けるのは、いつだって勇者の役目だもんね! あなたの魂に張り付いてる邪悪な能力を、剥ぎ取ってあげる!」



215	214	213	212
<p>アリス「ウイズ……っ。これがウイズの、本心？」</p>	<p>ウイズ「こんなのっ、やだ！ アリスを壊したくないっ。破壊なんてしたくない！ ほんとはみんなとっ、仲良くしたいのに……ッ」</p>	<p>アリス「これっ、ウイズの声！？ ウイズの心の叫び！？」</p>	<p>ウイズ「やだ……！ やだよッ！」</p>

※se1…雷鳴※se1…ゴゴゴっ、ゴゴゴっと地震の  
地響きのような轟音

219	218	217	216
<p>ウイズ「アリっ……ス……!？　ぐっ、がががアッ!？」</p>	<p>アリス「でもっ、退くわけにはいかない！　ウイズを助ける！　 ウイズ、助けるから！　絶対にそこからっ、解放してあげる ！」</p>	<p>アリス「あっぐっ、ううう!？　すごいっ、力……!　全力でぶ つかっても、押されるッ!？」</p>	<p>ウイズ「助けて……!　世界を滅ぼしたくないっ。みんなに嫌わ れたくないの!」</p> <p>※se1…雷鳴※se1…ゴゴゴっ、ゴゴゴっど地震の 地響きのような轟音</p>

224	223	222	221	220
<p>アリス「おはよう、ウイズ」</p>	<p>ウイズ「……つ、あ……ああつ、く……アリ、ス……っ？」</p>	<p>アリス「やった……！ ウイズの魂に張り付いてた邪悪な黒い霧をつ、なんとか取り払った！」</p>	<p>ウイズ「ぎゃああああッ！？」</p>	<p>アリス「……ウイズの動きが止まった！？ ウイズが暴走する自分に抵抗してくれてるんだ！ このチャンスにつ、私のすべての力を込める！ この一撃に——かけるッ！ はああああッ！！」</p> <p>※2…かめはめ波のようなエネルギー放出系の大技を放った音</p>

228	227	226	225
アリス「わかってるよウイズ。私が愛してあげる。だから私のことも愛して……っ」	ウイズ「ごめんなさい！ ああつ、我は……我はなんてことを……！ みんなを愛しなかった……。みんなに愛されたかった……！ それだけなのに……あああつ」	アリス「うん。今は泣いていいよ」	ウイズ「うつく、ううううつ……アリス、アリス！」

233	232	231	230	229
<p>ウイズ「いいよ。我の全部……アリスに預ける……っ。受け取って……！」</p>	<p>アリス「うわあ！ ウィズみたいな可愛い子にそんなこと言われたら、私……我慢できないからねっ」</p>	<p>ウィズ「アリス……っ、ありがとう……。私も、アリスを愛したい……っ。我を救ってくれたアリスに、すべてを捧げたい……！」</p>	<p>アリス「もちろん！ ウィズみたいな可愛い子を愛さないなんて、勿体ないもん！」</p>	<p>ウィズ「……アリス、こんな我でも、愛してくれるの……？」</p>

238	237	236	235	234
<p>アリス「でしょ？ 愛し合うのって最高だよね！」</p>	<p>ウイズ「んふっ、ちゅう……ふはあっ。すごく、気分が高まる……！ ハアッ、気持ちいいっ」</p>	<p>アリス「キスすると、なんだか気持ちまでつながるみたいで、あったかいでしょ？ もっとしよ……！ んっ……ちゅっ、ちゅ……っ」</p>	<p>ウイズ「んあ！？ これが……アリスとの口付け……？」</p>	<p>アリス「うん……。ちゅっ……」</p>

242	241	240	239
<p>アリス「んはあつ。ふふ、これよりもすごいこと……してあげる……！ ああつ、ウイズのおっぱい、クニクニって揉みながら……乳首、舐め上げるつ。レロツ、ちゆるん！」</p>	<p>ウイズ「あんん！？ ジュル、るりゆうつ。すごつ、い……！ 舌を擦り合わせへ……つ、ジュルル！ よだれえ、混ぜ合わせへるだけなのにつ……頭がキュっへ、締め付けられるみたいに、なるウ……！」</p>	<p>アリス「じゃあもつと、深いキス……！ はむうつ、ちゆる……つ、ちゅつ……レロンツ、べろつ……んちゆるツ！」</p>	<p>ウイズ「うん……。アリスの愛……もつとほしい……！ アリスともつと、愛し合いたい！」</p>

246	245	244	243
<p>アリス「乳首よりも恥ずかしいところ……舐めてあげる……ッ！ ウイズの股、広げて……！ んんっ」</p>	<p>ウイズ「きゃあ！？ そんな恥ずかしいことっ、言わないでえ……！！」</p>	<p>アリス「んちゆる、チロチロチロ、ベロン！ んっ、はああっ。 舌先でクリクリこね回しただけでっ、ウイズの乳首……かっ ちかちになった！ ピンピンに勃起してるよっ」</p>	<p>ウイズ「きゃあんッ！？ 本当につ、すごイ……！！ お乳の先に っ、ぬるぬる舌が這い回って！？ きゃんん！？ 乳首ジリ ジリするウ！ 背中まで伝わって、頭の中も……ピリピリ痺 れてくる！」</p>



250	249	248	247
<p>アリス「うあ！？ アソコを軽く舐めただけで、お潮がピュって出てきた！ ウイズ……かなり感じやすいんだっ。可愛いよ！ レロンツ、ベロベロツ！ ジュルう！」</p>	<p>ウィズ「ひああんツ！？ んっ、んツ！ んんん！？ きゃあああッ！？」</p>	<p>アリス「ふふっ。ウィズの下のお口……っ、もうヒクヒクっして、いやらしい……！ ああっ、私も興奮する！ ヒクついてる肉穴の入り口に、舌、差し込んれ……レオレオレオッ！」</p>	<p>ウィズ「んきゅあッ！？ そんなあ……っ、アソコ、丸見えになって！？ んんんっ、恥ずかしすぎる……！」</p>

254	253	252	251
<p>アリス「ああつ、ああ！ ウイズ！ いっぱい潮噴き絶頂して！          んんんっ、私の興奮もヤバくなってきた！ 今度は一緒に          気持ちよくなろっ」</p>	<p>ウィズ「んひアッ！？ あいつ、いいいいンツ！？ イクっ！          ひきやああああッ！？ 潮っ、ピュルピュル噴いて恥ず         かしいのにつ、イツてるよオ！」</p>	<p>アリス「ああンツ！？ すごいっ。アソコがキュンキュンして…          …イツてるんだね！ 私で感じてくれるのっ、嬉しいよ！          もっと変にしてあげる……！ れりゆれりゆれりゅん！」</p>	<p>ウィズ「卑猥なお口ペロペロするのっ、きやはあああンツ！？          だっ、ダメ！ んんきゅう！？ どんどん気持ちよくなっ          て！ 感じすぎて！ また変になる！ んくうううンツ！          ？」</p>

258	257	256	255
<p>アリス「ああっ、ウイズ！ 肌もすつごく、綺麗だね……！ 私と大違いっ。くあっ、ハアッ、肌も擦り合おっ。すりすりっ、すりすりっ！ はあンッ！」</p>	<p>ウイズ「きゃ！？ やあああ！？ イッて敏感になってるのにつ、擦ったら余計に！ にやあああ！？ ビリビリっ、身体中が痺れてる！？ 痙攣も止まらなくてっ、ダメえ！」</p>	<p>アリス「お互いの股間を、すり付け合うの！ ほらっ、こうして腰、くねらせて！ んんんっ！ くん！ くはあンッ！？」</p>	<p>ウイズ「あひイッ！？ 今イッたばかりなのにつ、アリス！？ きゃああ！？ あっ、うう！？ 脚っ、こんなに深く、絡み付かせて……！？」</p>

262	261	260	259
<p>アリス「ウイズのクリもっ、皮から飛び出すくらい勃起してる！ ここもっ、くりゆくりゆってすり合わせて！ んきやん んッ！？」</p>	<p>ウイズ「アひンッ！？ アソコが擦れ合うたびにっ、グチヨグチ ヨって音があ……！ 恥ずかしくてっ、気持ちよくてえ！ もうわけわかんなくなってる！」</p>	<p>アリス「ウイズの身体っ、熱くって……気持ちいい！ おっぱい も、乳首もっ、コリッコリッて擦れ合うのっ、ほんとにゾク ゾクする！ はああ！ たまなくなっ、勝手に腰一振㇏ よじ㇏っちゃう！ くンン！」</p>	<p>ウイズ「ひああんッ！？ アリスのお肌がつ、身体に擦れるだけ でっ、頭の中に電気が走るみたい！？ ひああ！？ 乳首同 士っ、すれ合ってるウ！ きやんん！？」</p>

266	265	264	263
<p>アリス「くひあ！ ああんツ！ うんつ、イこ！ あああつ、 ウイズ！ 私、イク……！ くつ、ふああ！？ イクツ！」</p>	<p>ウイズ「アリス！ アリスう！ アリスもきて！ んんんイツ！ ？ イツてほしい！ アリスと一緒に、イキたいツ！」</p>	<p>アリス「感じすぎてっ、いいの！ 私もダメになりそ……！ ひ ああ！ クリからっ、アソコの口までぬりゆぬりゆってっ、 ウイズの肉の穴が擦れて！？ あああつ、ウイズと気持ちよ くなることしか考えられない！」</p>	<p>ウイズ「はひひんツ！？ そこダメ！ 肉芽は感じすぎてっ、お かしくなるから！」</p>

271	270	269	268	267
<p>ウイズ「きやう！？ ふひつ、ひはあ……！ あぐつ、ハアハア  ハアッ！ まだイッて！？ んんんつ、またお潮出てるウ！  ？ あああッ！？」</p>	<p>アリス「きやああ！？ ウイズも腰振ってる！？ いやらしいお  口グリグリ摩擦されてっ、イクイクイクうううッ！！」</p>	<p>ウイズ「ひひゃッ！？ 強ッ！？ あつ、アッ！ イクッ！  ああああッ！！」</p>	<p>アリス「最後につ……アソコ同士、思い切り押し付け合って！  ぐっ、ふんん！ グリュッて強く擦るッ！ ふぐぐンッ！」</p>	<p>ウイズ「きやんんん！？ 我もっ、イひ……イ！ いいいいくッ  ！？」</p>

276	275	274	273	272
<p>アリス「ウィズ……？ 最後って……」</p>	<p>ウィズ「はふ……はう……っ。アリス……最後に……アリスと 愛し合えて……よかった……っ」</p>	<p>アリス「これがっ、くはあ……っ。愛し合うって、ことだよ…… っ。ウィズ……」</p>	<p>ウィズ「はひ！？ あひひんっ！？ うっ、ぐは！？ はふっ、 ハアハアッ……あう……あああ……ッ！ すごひ……気持 ち、よかったあ……ッ」</p>	<p>アリス「イッて！ イッてえ！ 私もイッてるから！ んあああ ！ 潮噴きアクメしまくってえ！」</p>

281	280	279	278	277
<p>ウイズ「アリスが言うと……そんな気がしてくるから……不思議……。ふふつ。じゃあ……また……」</p>	<p>アリス「うん……。またどこかで会えるよ、絶対！」</p>	<p>ウイズ「それに……この子に……イリスに、身体を返さなきゃ……。アリス、また会えるといいね……」</p>	<p>アリス「そう……なんだね……」</p>	<p>ウイズ「我は、ここで……お別れ……。我の肉体は、もう失われてしまつて……。だから、アリスと同じ世界には……いられない……」</p>



286	285	284	283	282
<p>アリス「うわぁ、いい眺め！ ああつ、こうやって女の子達に迎えてもらえるのって、最高♪」</p>	<p>サーラサーラ「……ふう。アリス、戻ってきたんだね」</p>	<p>ライラ「おおつ、アリス！ やっぱ無事だったか！ さすがだぜ！」</p>	<p>ウルド「……ッ！？ お姉様ッ！」</p>	<p>アリス「またね、ウィズ……！」</p>
<p>※282…回復魔法をかけたような癒しの音(キャラクターが天に召されるシーンで使用)</p>				

291	290	289	288	287
<p>アリス「うん。ウィズは、遠いところに行っちゃったけどね。でもまた、会えると思う」</p>	<p>イノリ「おめでとうございます。魔神から完全に切り離すことに成功したんですね」</p>	<p>アリス「もちろんだよ！ ほら、この通り！ 今は消耗して眠ってるだけ」</p>	<p>ウルド「お姉様……イリスは大丈夫なのか？」</p>	<p>マツリ「まあ、あっけらかんと。まったく……あなたという人は、こちらがどれほど気を揉んでいたのかしりもしないで」</p>

296	295	294	293	292
<p>アリス「うっはぁー！　なんて強引なお誘い！　どの女の子も、みんな大好き！　さーて、これから全員と交わっちゃうわよ！　みんな覚悟しててね！」</p>	<p>サーラサーラ「アリス、また一緒に生殖行為しない？」</p>	<p>マツリ「ねえアリス、わたくしはあなたのために身体を休めてましたから、これから二人でベッドに行くこともできますわよね？」</p>	<p>ウルド「……ご主人様？　アリスはあたしのお姉様だぞ」</p>	<p>ライラ「ごたごたしたが、とりあえずアリスが戻ってきてよかったぜ！　さすがオレのご主人様だ！」</p>

302	301	300	299	298	297
<p>アリス「オールOK！ みんな大歓迎！ さあ、早く帰りましょう！ 私のハーレムへ！」</p>	<p>イノリ「あ、あの……私も混ぜてもらっても、いいでしょうか……？」</p>	<p>サーラサーラ「今度はアリスが攻めてくれていいよ。私もアリスのテクニク、味わいたいしさ」</p>	<p>マツリ「さ、アリス、言い争ってる二人は放っておきましょう」</p>	<p>ウルド「何を言うか！ それはあたしが務めるのだ！」</p>	<p>ライラ「望むとこだ！ 一番手はオレだぜアリス！」</p>